

単元名 うれしい ことば

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 言葉の働きに気付き、うれしい言葉に関する文章を書こうとする。

標準的な展開例

02010111_001

【教材名】うれしい ことば (上 P.60～P.61)

【準備等】うれしいことばカード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 これまでの生活を振り返り、いつ、誰にどんなことを言われたことがうれしかったかを発表する。 ★うれしい言葉を見付けて、みんなに伝えよう。 ○これまでの生活を振り返り、どんなときに、誰にどんな言葉を言われたことがうれしかったかを思い出して発表する。</p> <p>○教科書 (P.60)の挿絵を見て、どんなときにどんな言葉を言ってもらおうとうれしさを思い出して発表する。</p> <p>○教科書 (P.61)の作例を読み、感想を発表する。</p> <p>2 うれしい言葉の一つを選び、そのときの出来事と気持ちを文章にする。 ○教科書 (P.61)の例文を参考に「うれしいことばカード」の書き方を知る。 ○自分の体験の中から「うれしいことば」の一つを選び、文章を書く。 ・うれしい言葉を題名にする。 ・出来事とそのときの気持ちを3文程度で書く。 ・会話文はカギ(「」)を使う。</p> <p>○書いた文章を読み返し、推敲する。</p> <p>○書いた文章を友達と読み合い、感想を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面を思い出せるように、クラスの出来事を例に挙げるなど、児童が身近な場面を想起できるような導入を工夫する。 ・運動会などの全ての児童が思い起こせる行事から、「がんばったとき」「こまったとき」などに言われてうれしかったことを発表させてもよい。 ・ここでは、言ってもらう立場で考えさせる。 ・教科書に吹き出しを書いて、記入させてもよい。 【評】うれしいことばを発表する活動を通して経験したことを伝える言葉の働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 ・なぜうれしいのかや、自分が言ってもらいたい言葉などを中心に感想を発表させる。 ・後で掲示したり、作文を綴じて本にしたりして共有できるように用紙を工夫する。 ・「どんなときに」「だれに」言われたのか、言われたときや思い出したときに自分がどう思ったのかを順序立てて書かせる。 【評】うれしい言葉に関する文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・みんなに伝えることを意識させ、分かりやすい文になっているかを確認させる。 【評】文章を推敲させる活動を通して、経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。 ・自分たちがたくさんのうれしい言葉に支えられていることや、自分自身も身近な人をうれしい言葉で喜ばせることができることに気付かせる。 ・ここでの学習を、学級活動や道徳などに関連させ、児童の日常生活に還元されるようにしたい。

【 備 考 】